

XN-9000 を用いた気管支肺胞洗淨液 (BALF) 測定の基礎的検討

◎藤上 卓馬¹⁾、酒巻 尚子¹⁾、末武 祐介¹⁾、鈴木 康太¹⁾、松久保 修¹⁾、三澤 千鶴¹⁾、高嶋 幹代¹⁾、中根 生弥¹⁾
JA 愛知厚生連 豊田厚生病院¹⁾

【はじめに】当院では、2012年12月より多項目全自動血球分析装置 XN-9000(sysmex 社)を導入し、体液モード(以下 BF モード)を用いて、胸水、腹水、髄液等を測定しているが施設間で測定方法などが異なる。今回、我々は BF モードを用いて気管支肺胞洗淨液(以下 BALF)測定 of 自動化に向けた基礎的検討を行ったので報告する。

【対象および方法】2014年10月から当院検査室に提出された BALF 64 検体を対象とした。方法①濾過検体と細胞遠心法での浮遊液との細胞数、細胞分類それぞれの機械値との相関。方法②細胞遠心法での浮遊液の機械法と目視法における細胞数、細胞分類の相関について検討を行った。

【結果】方法①細胞数:($y=0.9605x-65.314, r=0.9984, p<0.01$)リンパ球:($y=1.2253x-17.825, r=0.9839, p<0.01$)好中球:($y=1.0398x-44.022, r=0.9989, p<0.01$)好酸球:($y=1.1824x-5.2488, r=0.9992, p<0.01$)単球+HF-BF:($y=1.0376x+37.059, r=0.9864, p<0.01$)単球:($y=1.3986x-22.051, r=0.9229, p<0.01$)と濾過検体と浮遊液の機械値は高い相関を認めた。方法②細胞数:($y=1.0174x+114.54, r=0.9309, p<0.01$)リンパ

球:($y=1.3482x+8.383, r=0.9715, p<0.01$)好中球:($y=1.0747x+86.901, r=0.9806, p<0.01$)好酸球:($y=0.7949x+6.0372, r=0.8756, p<0.01$)単球+HF-BF:($y=0.9115x+88.735, r=0.7236, p<0.01$)と高い相関を示したが、単球:($y=0.3833x+50.941, r=0.5528, p<0.01$)と低い相関を認めた。

【考察と結語】濾過検体と細胞遠心法での浮遊液の細胞数、細胞分類の機械値の相関は良好な結果であった。浮遊液の細胞数の機械法と目視法の相関も良好な結果であったが細胞分類においては単球分画が低い相関を示した。これは、HF-BF 領域に組織球の一部や異型細胞などが出現するためと思われる。そのため、細胞数算定は機械法による迅速な報告が期待できるが細胞分類における機械法の報告には細分化の限界があるため目視によるメイギムザ標本での細胞分類が必要になると考える。今後、症例数を重ねて上皮細胞などによる細胞数の機器的偽高値の有無や疾患別の細胞分類の乖離について追加検証していきたい。

連絡先：(0565)43-5000 (内線：2963)